

## 平成 18 年度第 6 回大学図書館近畿イニシアティブ能力開発専門委員会議事概要

1. 日 時 平成 19 年 1 月 18 日 (木) 13 時 30 分 ~ 17 時 00 分

2. 場 所 関西学院大学図書館 (西宮上ヶ原キャンパス)

3. 出席者 (順不同、敬称略)

京都大学人間環境学研究科・総合人間学部図書館 辰野 直子

神戸大学附属図書館 石定 泰典

大阪府立大学学術情報センター 赤崎 久美

姫路獨協大学図書館 梶浦美千子

近畿大学中央図書館 鹿田 昌司

同志社大学総合情報センター 西山 智紗

京都産業大学図書館 近江由紀子

大阪大学附属図書館 杉山 宗武

関西学院大学図書館 中村 順治

欠席者

和歌山県立医科大学図書館 南方 政英

4. 議 事

第 5 回能力開発専門委員会議事概要について確認が行われた後、議事次第に従って検討を行った。

1) 平成 18 年度初任者研修のまとめ

各委員から各自が作成したまとめの報告書に基づき報告があった。特に次のような問題点等の指摘があった。

- ・電子メールでの応募はトラブルが発生する可能性がある。今後はトラブル回避手段を考慮した募集をする必要がある。
- ・講師への委嘱状について運営委員会事務局との間で行き違いがあった。業務分担が明確でなかったため、確認する必要がある。
- ・班別討議での「提案」の役割がわかりにくく、事例紹介しかできなかったという受講生の意見があった。
- ・講師を務めたのはよい経験になった。専門委員会から講師が出るのも意義あることと思う。また、派遣職員の方は業務内容が決まっているので、全体の話聞いても分かりにくいかも知れないと感じた。
- ・講師に録音等の許諾を得る際に不備があった。運営委員会事務局からの連絡が不十分であったのが原因である。各講義の間の 5 分の休憩は適切であったかどうか疑問に思う。
- ・アンケートを集計していくつかの問題点を感じた。専任職員よりその他の職員の方が多かったため、どう意見を汲み上げればいいのか。休憩が 5 分は厳しいという意見が多く、1 日目のスケジュールが遅れ、最後の方が慌ただしくなったのが残念であった。運営・進行に不満足という意見があったが、特に自己紹介の扱いは今後注意すべきである。非常勤職員向けの研修も必要ではないか。

- ・アンケートの公開方法、Web で広報する場合の加工の方法、個別の研修についての意見の扱い、意見の件数を上げるかどうかなどが問題になる。
- ・記録については、1 台のデジタルカメラのデータが失われるということが起こった。
- ・録音カセット、アンケート原紙は昨年と同様に石定委員に保管を依頼したい。
- ・複数の担当者がある業務については、責任者を決めておいた方がよいのではないか。
- ・配布資料を作成したのは、受付作業の省力化に役立ったが、原稿の到着が遅く、時間のゆとりがなかった。
- ・情報交換会の参加者が少なかったが、金額の問題ばかりではないとも思う。情報交換会の趣旨を示した方がよいのではないか。

各委員からの報告の中で、アンケートの取り扱いと決算報告について検討が行われて次の結論を得た。

#### アンケートの取扱い

生のデータではなく、要約して公表するのが一般的と考えられるので、項目ごとに代表的意見を挙げる形に再編集し、運営委員会報告用および Web 公開用とする。1 月末頃を目途に西山委員が担当する。

#### 決算報告について

決算報告書(2)の備考欄の人数と(1)の「雑収入繰越金」という表現が適切かどうか疑問が出され、南方委員に確認することとなった。また、資料作成費を分けて金額を明示する方がよい、エルゼビア社からの寄付金を運営委員会からの収入としてまとめ、内訳を示す形の方がよいとの意見が出され、南方委員に修正を依頼することとした。

### 2) 平成 18 年度その他の能力開発事業について

公立大学図書館協議会との共催研修について赤崎委員から、N I I 主催国際シンポジウムへの協賛について杉山主査から、私立大学図書館協議会京都地区協議会との共催研修について西山委員から、それぞれ報告があった。京都地区協議会との共催研修について 1 枚程度にまとめなおすこととした。

### 3) 能力開発事業アンケートについて

杉山主査から提示された案をもとに検討した。これからアンケートを実施して、中級研修の内容を決めるとすると準備開始時期が遅くなる。来年度は、中級研修を実施することが既に決定しているので、今年度中に概略を決めて運営委員会に諮っておく必要があるとの指摘があり、人材・研修データベースについてのアンケートとしてはどうかとの意見が出された。

更に、初任者研修の人数把握はやはり必要であるなどの意見が出され、主に次の 3 点を問うアンケートとすることとし、辰野委員が 1 月中を目途に原案を作成することとなった。また、年度内に実施し、まとめまで行うことが確認された。

#### 人材・研修データベースについて

初任者研修対象人数の把握  
研修事業への協力を得られるかどうか

4) 平成19年度中級研修について

杉山主査から中級研修案が示され、昨年度のアンケートで要望が強く、かつ他に研修機会がないものとして、「広報」か「図書館マネジメント」を取り上げてはどうかとの提案があった。

「図書館マネジメント」は管理職研修のイメージを伴うこと、また、図書館マネジメントについては、アウトソーシングが重要であるが、アウトソーシングでは業者側の話を聞くとか、事例報告とかになりがちで、その他の研修に該当するのではないかとの意見が出された。受講対象者を経験年数が3年以上10~15年までくらいと考えると「広報」が適切ではないかとの意見が強く、「広報」をテーマとすることに決定した。

次に、中級研修の概要について意見交換があり、次のとおりとした。

日程 2日間とし班別討議を含める。

時期 専門委員の交替があるので、10月以降の予定とする。

講師・内容 図書館に多少は関わりのある広報の専門家に基調講演を依頼することとし、人選については、メーリングリストで意見交換する。事例報告を行うとともに、班別討議では、各館の広報誌等を持ち寄り、批評し合う中で、建設的なあり方を探る内容とする。

5) 近畿地区内での能力開発事業の協調について

運営委員会から他の組織との協調を検討してはどうかという意見が出ている旨、杉山主査から説明があった。特定母体で実施できない場合に、その都度、共催にするのはよいが、制度化することは難しいのではないかと、主体はそれぞれの母体であり、近畿イニシアは協力するということになるのではないかと、などの意見が出された。この件については、能力開発専門委員会で決められる事柄ではないので、運営委員会の方針の検討をお願いすることとした。

6) 人材・研修データベース(仮称)について

運営委員会から、再度検討を要請されている旨、杉山主査から説明があり、意見交換を行った。主な意見は次のとおりである。

- ・プライバシー保護に配慮した上で、能力開発専門委員会内での利用なら問題ないのではないかと。
- ・既に公開されている情報を使って公開することは可能ではないかと。
- ・名称から「人材」を省いて図書館研修データベースとし、公開されているデータを集約して検索機能を設け、許諾が得られるか、あるいは公開されている資料にはリンクを張るということにしてはどうか。
- ・ワーキング・グループを設置し、データの収集と公開方法を検討するのがよい。

- ・まず、内部利用のためデータを収集し、将来的にオープンにして行く方向とし、NII や国公立大学図書館協力委員会に協力を依頼することもできるのではないか。

7) 次年度の能力開発専門委員会体制について

杉山主査から、全員の任期が今年度末で終了するが、半数くらいは留任して欲しいという意見がある旨、説明があり、各母体から留任要請があれば協力して欲しいとの依頼があった。

8) その他

- ・近畿イニシアのホームページについて、各館の展示会情報を掲載してもらってはどうか、また、講演会等の行事で、主催者側の要望があれば掲載できるようにしてはどうかとの意見が出された。この件については、運営委員会で報告の上、広報・Web専門委員会に検討を依頼することとした。
- ・『大学の図書館』（大学図書館問題研究会）に近江委員が能力開発専門委員会の紹介記事を執筆したことの紹介があった。

以 上